



世界津波の日に想う

校長 小川 泰文

校庭のクヌギの下で子どもたちがドングリを拾っています。その脇ではハナミズキの葉が赤く色づいています。校舎の窓から眺める景色に秋の深まりを感じます。

さて、震災不明の娘が14年7か月ぶりに帰宅。宮城県南三陸町で見つかった人の骨の一部が東日本大震災で行方不明となっていた当時6歳の女の子のものと分かり、ご家族のもとに引き渡されたという報道がありました。

女の子は震災の発生当時、岩手県山田町の自宅で津波に襲われ行方不明になりました。見つかった場所からは直線距離で約100キロ離れています。

「手がかかる子だったが、それでも、もっと子育てしたかった。」

母親はそう語りました。手がかかるということは、それだけ手をかけたということ。可愛がられた子であったということ。考えてみれば、手がかからない子などいないはず。女の子は、存分に手をかけてもらって育ったと思います。そして母親は、

「たった6年間という娘を育てた短さを改めて感じています。にこにこしてママーと言っているかなと想像しています。」と続けました。

ある研究によると、親が子育てをする時間は、親が思っている以上に短いと言われます。手をかける時間もそう多くありません。だからこそ、かけがえのない時間であろうと思います。

遺骨を抱えたご家族の自動車を南三陸署の皆さんが整列・敬礼で見送る光景に、何ともいえない感情が湧き上がり、テレビ画面を見つめていました。

震災から14年経過した今日でも終わっていないことが随所にあります。復興はもとより、捜索、ご家族の想い……。

11月5日は「世界津波の日」。江戸時代の1854年に起きた「安政南海地震」での逸話「稲むらの火」にちなんでいます。この年の11月5日、現在の和歌山県広川町を大津波が襲いました。これに遭遇した浜口梧陵が稲むらに火を付けて、村人を安全な高台へ誘導しました。有名なこの話は海外にも広く伝えられています。

世界津波の日にあたり、これまで自然災害で被災された方々のことを想い、多くの悲しみを胸に刻みながら、万が一の場合どのように行動すべきかを常に考えておくことの大切さを感じます。そして、学校防災体制の確立とともに、子どもたちに危険回避能力などを育成していくことの大切さも。

2学期も折り返しを迎えました。引き続き、ともに子どもたちを支えていきましょう。

❁ 芸術の秋 文化祭

10月26日(日)に文化祭を開催しました。今年度は、「絵画作品展示」「学習発表会」を実施しました。ご家庭・地域から多くの皆様にご来場いただき、北っ子の作品や発表を鑑賞していただきました。発表ではたくさんの拍手をいただき、大変盛り上がった1日となりました。ありがとうございました。



1 学年



2 学年



3 学年



4 学年



5 学年



6 学年

全校スマイル班遠足

10月3日(金)に全校スマイル班遠足を行いました。今年度はハレラテつばめのオープンに合わせて利用させていただくとともに、周辺の市立体育館、交通公園、こどもの森などを含めて、スマイル班で計画して遊びました。「楽しく笑顔があふれる最高の遠足にしよう」をスローガンに、親睦を深め、楽しみました。



大きなネットの遊具で



天候に恵まれ外でお弁当

★第28回MOA美術館児童作品展

1年 HH 努力賞

★令和7年度新大全国教書大会

4年 KM 準特選 5年 YN 準特選

★燕市・弥彦村児童生徒化学作品展・科学研究発表会

3年 FK 「カラフルなバスボム」

4年 EY 「ガムシロップと水の入れかわり」

5年 YN 「何が電気を通して、何が電気を通さない？パート2」

5年 AY 「でんぷんが含まれている共通点はあるのか」

6年 SY 「手作りろ過器でコーヒーを透明にしたい！～活性炭の限界を知る～」

*YNさんの研究は、科学教育センターより「いきいきわくわく科学賞2025」へ推薦されました。

～ 北っ子の活躍 ～

